「ゑと本　ささめやゆき　石川えりこ　絵本作家のふたり展」関連ワークショップ

貼り交ぜ屏風を作ろう！

2024年8月10日(土)　開催

ささめやゆきさんは、絵本原画や絵画、版画といった平面作品だけでなく、屏風や掛け軸も制作しています。そんなささめやゆきさんのアイディアから、かつて筑豊を支えた炭鉱産業を象徴する「ボタ山」をテーマに、嘉麻市出身の石川えりこさん、そして子どもたちと一緒に屏風作品を作るワークショップを開催しました。こちらでは、先生たちが17名の小学生と一緒に作り上げた２つの屏風を展示しています。

★★★★ワークショップの様子を大公開！★★★★

はじめに　ボタ山について知る

今回、ボタ山を題材とするにあたって、石川さんが「ボタ山って知ってる？」と子どもたちに尋ねたところ、意外にも手を挙げた子はわずか１名のみで、それ以外の子どもたちは聞いたり見たことがない様子でした。そこで、まずボタ山が実際にどんなものかを知ってもらうために、展示室に移動して、石川えりこさんの幼少期を題材とした「ボタ山であそんだころ」を鑑賞しました。その後再びアトリエで、ボタ山ができる仕組みを石川さんご自身がホワイトボードに絵を描きながら説明しました。

制作　自分の思うままにボタ山を描く

ボタ山について学んだ後、いよいよ絵の制作に取りかかります。画用紙や、ささめやさんが普段使用している和紙に、透明水彩絵具やクレヨンでボタ山を描いていきます。現在の緑に覆われたボタ山を描く子や真っ黒のボタ山を描く子、色を複雑に混ぜたり背景を描きこんでみたりと、一つの題材からどんどん想像が膨らんでいく参加者の様子がうかがえました。

▲クレヨンの黒でボタ山を表現中。真剣なまなざしで自分だけのボタ山に向き合っています。

▼作品が完成した子から先生に渡します。ひとつひとつと完成する度に、会場から拍手が起こりました。

▲ささめやさんと石川さんもボタ山の絵を描きました。おふたりのボタ山もぜひ探してみてください。

糊付け　貼り交ぜ屏風に仕立てる

絵を乾かした後、屏風に子どもたちの作品をレイアウトしていきます。真っ白な屏風がだんだんとボタ山で彩られていきます。背の低い屏風はささめやさんからご提供いただいたもので、背の高いほうは秋月の古道具屋で購入したものをおふたりが修理して再利用したものです。

サプライズ　ささめやさんからのご褒美♪

石川さんが絵を屏風に貼っている間、暗幕を張ったサロンに移動し、ささめやさんが独自に生み出した「**幻燈紙芝居**」の上映会を行いました。語りとともに、巻物に描かれた物語が灯りに照らされゆっくりと進んでいき、子どもから大人まで幻想的な世界観を楽しみました。

完成　作品の前で写真撮影！

ささめやさん、石川さん、そして子どもたちが力を合わせて２つの素晴らしい屏風が完成しました。ひとりひとり違う表現や色使いで描かれたボタ山はまさに壮観です。写真撮影タイムの最後に参加者みんなで記念写真を撮りました。